



会期前2回目実施競技 9/24(火)～25(水)の試合結果

サッカー競技少年男子、激闘の末、GK 田中選手のスーパーセーブ連発により3位入賞！！

本県は24日(火)の準決勝で広島県と対戦。序盤から相手のプレッシャーに苦しめられたが、本県も何度かチャンスを作り、0-0で前半を終えた。しかし後半20分に先制を許すと、28分にも追加点を奪われ、0-2で敗れる結果となった。

続く25日(水)、3位決定戦で愛媛県と対戦。本県は、連戦の疲労を感じさせない気迫溢れるプレーで、ポスト直撃のシュートを放つなど、何度もチャンスを作り会場を沸かせた。しかし、得点には結びつかず0-0で後半が終了し、勝負はPK戦に持ち込まれた。そして迎えた運命のPK戦、本県のGK 田中利玖選手(アビス福岡U-18)が相手のシュートを3本止める大活躍を見せ、本県が見事に3位入賞を掴み取った！ ※H27和歌山国体(優勝)以来の上位入賞

今大会を振り返って、少年男子藤江智規監督(北九州市立足立中学校(教))は、「チーム発足時から、『献身・誠実・感謝』をテーマに掲げ、選手に伝えてきた。大会に入り、5試合を戦っていく中で、選手たちがまとまり、強さを発揮してきた。本当に良い時間を過ごさせてもらった。」と選手への感謝の気持ちを表していた。また、今回3位入賞の立役者であるGK 田中選手を支え続けた吉村謙太郎コーチ(福岡市立城香中学校(教))は、「これまでの経験があるため、自信をもってプレーするよう声をかけ続けた。彼の献身的な姿がこの結果に結びついた。」と田中選手の活躍を称えた。



試合中の様子



大活躍の田中選手



表彰式直後の様子

体操競技(新体操)少年女子、個人+団体の結果、堂々の6位入賞！

新体操の会場は、開催県である佐賀県の応援で満員となり、佐賀県の演技の際は会場から大歓声が上がった。25日(水)、本県の団体演技順は、佐賀県の次であったため、プレッシャーを感じながらの演技となったが、24日(火)の個人より順位を上げ、6位入賞を果たした。松崎摩子選手(中村学園女子高校)は「今回の国スポに向けて、インターハイからいろいろな技を改善してきた。完璧な演技ができたわけではないが、入賞できて嬉しい。」と国スポに向けて取り組んだ成果が出たことを喜んだ。



演技後の様子

TEAM 福岡オリンピック選手、大会期間中の過ごし方についてのインタビュー②

第2弾は水泳競技(競泳)、成年女子100m平泳ぎで優勝を果たした鈴木聡美選手((株)ミナスイ)へのインタビューである。

試合前日と当日の食事は何を食べているか？

試合前日は、昼にそば、夜にパスタを食べ、当日の朝は卵かけご飯を食べることが多いです。

試合当日の補食は何を食べているか？

糖分摂取のため、バナナ、ゼリーようかんを食べています。

試合前日は何時間睡眠を取るようになっているか？

宿舎の出発時間に合わせて、7~8時間睡眠を意識しています。

試合後のケアで意識していること

1分1秒でも早くダウンスイムを始めています。その後すぐにストレッチを行うようになっています。また、大会期間中は何も考えない時間を作り、リラックスを図っています。



県スポーツ協会公式 Instagram



鈴木聡美選手